

地面の中で地震が発生し、その波が地面に伝わった時に、私たちはゆれを感じます。こうして感じる「ゆれの大きさ」と「地震そのものの大きさ（規模）」をさすものとして、それぞれ「震度」と「マグニチュード」という2つの表し方があります。

地震の大きさをしらべる器械は、ゆれの大きさをはかるための「計測震度計」と地震そのものの大きさをしらべるための「地震計」のふたつがあります。

## 【計測震度計】

地震のゆれをとらえて震度を計算します。

震度は、0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7の10段階あります。

計測震度計は、気象庁だけではなく、防災科学技術研究所や自治体などにより、全国で4,000ヶ所以上、東北地方では、約500ヶ所に設置されています。

このように、みなさんの住んでいる各市町村の震度をはかっており、地震があった時はテレビなどで「〇〇市の震度は〇でした。」とお知らせされます。



## 【地震計】

地震計は、地震がおきた場所や深さ、どのぐらいの規模（マグニチュード）かなどをしらべるために、地面の動きを記録するものです。

地震計にもいろいろな種類があり、緊急地震速報を発表するために使われているものもあります。



地震計も気象庁だけではなく、防災科学技術研究所、大学などにより、全国で約1,400ヶ所、東北地方では約200ヶ所に設置されています。